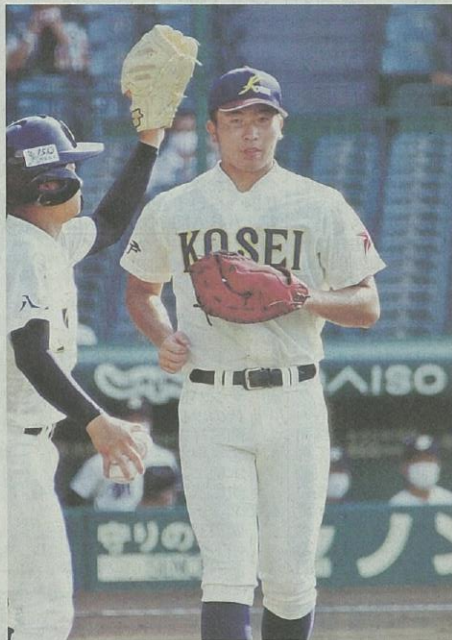


聖地で躍動「息子は誇り」



中軸としてチームを勝利に導いた織笠陽多選手(右)と野呂洋翔選手(左)
＝7日、兵庫県甲子園球場

光星 初戦突破

織笠選手(六戸出身)、野呂選手(つがる出身)の父

7日の全国高校野球選手権で初戦を飾った八戸学院光星。3年ぶりの甲子園でチームを勝利に導いたのは、打線の中軸に座る織笠陽多選手(六戸町出身)と野呂洋翔選手(つがる市出身)だ。青森県内外から多くの選手が集う同校に入

学し、あえて激しい競争の中に身を置き、成長を目指すことを選んだ2人。努力を重ね、夢の聖地で躍動する愛息を見守った両選手の父は、「大舞台に立った息子は誇り」と万感の思いに浸った。(福田駿)

となった。「光星に入っ
て良かったよ」。創志学
園戦の後に連絡を受けた
勝之さん。「入学直後の
けがなどもあったが、人
知れず努力を続けたのだ
ろう。大舞台に立つてく
れた息子を誇りに思う」
と頬を緩めた。

四回に犠飛で貴重な追
加点を挙げた織笠選手。
父勝之さん(46)は「昔は
引込み思案だったが、
高校で大きく変わった」
と目を細めた。
幼い頃はサッカーに興
味を持っていたが、友人
の影響もあって小学3年
で野球チームに入団。す
ぐに頭角を現し、県選抜
に選ばれた。だが、その
チームで輪の中心に入れ
ず、隅の方で一人たらず
む姿が印象に残っている
という。

一方、野球の実力は中
学でも順調に伸びた。光
星への進学を勧めたのは
勝之さん。「自分よりう
まい選手ばかりいるチー
ムで勝負してみたらどう
だ」。力量を評価してい
ただけではなく、精神力
の向上を願う親心もあつ
た。
息子は期待に応え、今
や不動の中軸に。青森大
会では本塁打2本を放
ち、甲子園出場の立役者
待した。

四回に先制適時打を放
つとアルプススタンドで
喜びを爆発させ、「地区
大会では振るわなかった
から、本人が一番ホッと
しているだろう」と笑顔
を見せた。
元球児らしく、「次は
チャンスで一本出た方が
勝つ」と次戦の展開を思
い描く克久さん。「次も
良い場面で打ってほし
い」とさらなる活躍を期
待した。

成長した姿に万感の思い